

五  
格











あわしー舟橋乃をたはしん  
珠文く神を山伏の  
橋をたわくし舟をたはしん  
山伏の力をたはしん  
橋をたわくし舟をたはしん  
争したまひし舟をたはしん  
葛城やみづくし久米路の橋ハ

三訂  
度もつをたはしん  
うけつをたはしん  
きくも葛城やみづくし  
先りーなつはまたしん事も

あつゝのあつゝ  
りさの月影長閑な水の舟橋よ  
ぞいで柱もつたまーやばり  
括はる世をほくまたまー山杖  
もろ冬回一ぬ乃づくぎ乃  
わつわの夕暮よ袖打り〜ひ  
は通るあり、藤巻のはもあなわ

上月

河風のあふ波を舟橋乃波よ  
生来のまほくままー山杖巻  
めくわ竹ふた波を返らるる  
心ほくへゆるきをたまのあき

早詞

あつゝく萬葉集の哥よ東詠乃  
依燈の舟橋とるまな一みあ  
な〜と一流〜らま終らるは

何さの奉悦とそとく 三言 かしきん

うたの村で物語乃と果てしけり

寺のきりしあり 物語 者此所と位

くは光也ひまよあくと神はる

川を橋とけらげ船橋をならちと

しとる殿く通ひは家よ二親

けるを流とつとひ橋のつとを

とわちなひづうたをば遊あよ成

志しひしとるきとれたし橋乃

上もわづはもと落て其用しと

かた安枕と公因果とつひと供

三きよ沉果てお逢大お逢乃

お小多らきて 浮小世もなふ

若し欠の海とつあつめ川橋や



碧石を... 飛舟をうく...  
下を... 沈見も...  
力哉とせ... 心の鬼と...  
なを... 恋程乃...  
思ひ... 神遊く...  
物... 是と...  
り... 沈と... 外月

やま... 霞の...  
う... 雲と...  
中... 乃... 橋と...  
見... 申...  
赤... 船橋...  
う... け...  
ま... 花...

上  
あかめーたをあゝぬめく  
三寶加持のりひよるされ罷も  
下  
清ぬつきは乃かりき熟きく  
上  
つり小り光を程や後よ三まよ  
沈り方々於法のちりり  
下  
舟橋の浮ふ方とかなを熟きよ  
後  
引行老象をなれば安物の

故よもわほひうの橋柱乃  
おもた昔患をうかりん泣涙  
下  
南とやうな母は里川水万さわ  
下  
なすらんまらふか  
得もあゝ波の  
上  
磐石のくも  
下  
浅まーや 見おろき世を将乃

切力を交すやうな故なくして  
庭のみくはかなかりも氣  
心老ひ方成佛が夢をみる  
痛りやとて歌女の業深き  
ぞ物心をかわひそなをく  
昔をききけし人何事も  
懺悔し罪乃雲消す真如の月も

出に角一 弘隆の露乃晴然き  
づ家の燕乃一時が蝶の格女の  
多りあまきよづくく百族みえ  
中をききしやしりや  
なすの世に於ても妹背お中川の  
格のとなえおきくはとたづを  
まじり浪のよふちよは



おなすくははるもよあはぬ  
うねんのおもなはさく  
どもよ三進河橋のり一粒  
たふもそおれ乃きあり  
かりの種なく生え薬の安れ  
おぬの雲魁とらけおとを  
せり若患ふ沈没を行夫の法味

ぐわあしりまみ法乃が  
橋のまみ法乃おけのま  
うあ方とらまわおきあく



